

# ちよつとこの季節、要注意！ 虫さされについて

★春から夏にかけての季節は、アウトドアで遊びが増え、半そで、半ズボンになるため「虫」に刺される事が多くなります。

★症状は原因となる虫の種類や刺される側の年齢や頻度で個人差が強く、赤くなったり、膨れたり、水ぶくれになったり多様です。\*

できるだけ早く手当てして、痛みかゆみ、赤み、はれ、水ぶくれを早くとることが大切です。

★虫に刺されたら

- ①かいたり、いじったりしないようにしましょう。
- ②水道水でよく洗って冷やしましょう。
- ③ほっておくとしこりができたり、化膿してとびひになったりすることがあります。

★虫の種類カ、ノミ、ハチ、ムカデ、ブユ、アブ、ダニ、アリ、ケムシなど\*

## 虫の種類による症状の特徴

ネコノミ：下肢に多く、中心に刺点を持つブツブツが多いが時に水ぶくれを形成します。

ブユ、アブ：刺咬時に刺された部位に出血を伴います。

トコジラミ：刺し口が多数あることが多く、まわりが赤くなる。

ハチ、アリ：尾部の毒針で刺し、毒液を注入して痛みを伴います。

ムカデ：夜間おそわれることが多く、痛みが強い。一對の牙状で咬むので2つの傷があるのが特徴です。

イエダニ：吸血性で、中心に刺点のある赤くなる発疹で、脇の下、腹部、大腿部内側などに多く見られます。

ハチ：症状には刺された局所症状と全身症状があります。小児では殆どが局所のものが多いですが、多数の蜂に刺されると全身症状を起こし、アナフィラキシーショックを起こすことがあります。予防は巣に近づかないことです。香水やジュースなどもハチを興奮させます。黒い衣服はスズメバチの攻撃を受けやすいので避けましょう。露出部を少なくしましょう。刺される回数が増えるとアナフィラキシーショックを起こす頻度が高くなるので、以前にハチに刺されて蕁麻疹など全身症状を起こしたときは十分注意しましょう。



★治療\*

たかが「虫さされ」と思ってもきちんと処置を！

- ①市販の虫さされのくすり、かゆみ止めを使う。
- ②痛み、かゆみがひどいときはステロイド剤の外用薬を使いましょう。
- ③範囲が広いときや、まれですが、呼吸困難、顔色が悪い、意識がなくなるなど強いアレルギー症状が現れたときはすぐに病院へ行きましょう。

★予防\*

虫の多いところでは皮膚を露出しないように注意しましょう。また、予防的に虫よけを使ったり、網戸などで虫を入れないようにしましょう。

北九州地区小児科医会・北九州市医師会園医会 (<http://www.kitakyu-ped.com/>)